

出来秋に感謝しながら ニッ井小学校児童が稲刈り体験



▲黄金色に染まった稲穂を刈り取る児童

農業の大切さを感じ取ってもらおうと、JA青年部ニッ井支部は10月9日、ニッ井小学校五年生76名を対象とした、稲刈り体験を行いました。

児童たちは「春に植えた苗が大きく育っていて驚きました。管理してくれたJAの方々感謝して、丁寧に収穫して大切に食べたいです。」と話し、やり方を教わりながら綺麗に刈り取っていきました。また収穫した米は、JA女性部と一緒に「巻き寿司作り」に利用されます。

安定した高品質ネギの出荷で



▲出荷規格について確認を行う生産者

消費者に選ばれるネギを目指す

収穫・出荷の最盛期を前に、生育状況と出荷規格の確認を行う秋冬ねぎ目揃いが、10月17日に開催されました。

はじめに山谷初男部会長が「単価が低く厳しい状況が続いているが、高品質ネギの出荷にこだわり、消費者に選ばれる販売を目指していきたい。」と挨拶。また今後の病害虫防除や越冬早穫りネギの試験結果が説明されたほか、東京で行われたネギ品質査定会で、あきた白神ねぎが高い評価を得たことなどが報告されました。

収穫する楽しさと 食べ物大切に育む心



▲収穫した大きなサツマイモに笑顔の園児

JA青年部浅内支部による、「おもしろえで農業・イモ掘り大会」が10月30日に開催され、近隣の幼保育園児34名がサツマイモ掘りに挑戦しました。

青年部員から掘り方を教わった後、長靴・軍手姿の園児たちが元気いっぱい収穫を開始。大きなサツマイモを掘り出しては、「こんなに大きいよ!」「楽しいね!」と歓声を上げて喜んでいました。また、収穫したサツマイモは園児たちが家に持ち帰り、家族へプレゼントされました。

愛情たっぷりの野菜を利用者へ



▲児童からのプレゼントに笑顔の利用者

常盤小学校児童が野菜をプレゼント

10月25日に常盤小学校3年生が、自分たちで栽培管理した野菜を、養護老人ホーム松籟荘の利用者へプレゼントしました。

今年常盤小学校では、校内の畑を利用した食農教育を実施し、地元農家や能代市農業技術センターなどの協力のもと、ネギやカボチャなどを栽培しました。児童たちが「心を込めて作った野菜で、もっと元気になってください。」と挨拶すると、利用者は目を細めてお礼を述べていました。

